

豪州の再エネ移行はなぜ「最大10年遅れる」のか（前編）——政治と系統設計の構造

Published: 2026-01-07 / Updated: 2026-09-27

Summary

オーストラリアの再エネ移行は、豊富な再エネ資源に加えて、実装能力が時間軸を決めます。Net Zero Australiaの2025年モデルではCurrent Policiesシナリオが2030年に約59%再エネ、Net Zero 2050シナリオが82%へ到達する時期を約2033年としています。AEMOのDraft 2026 ISPも、設備供給や建設が制約された場合に2030年目標が後ろへ動く可能性を示しました。重要なのは、発電・送電・蓄電・許認可・人材・地域合意を一つの実装系として設計することです。次に確認すべき点は、各要素のリードタイムと、中央系統整備を補完できるローカルな分散エネルギーの役割です。

Key Points

- 豪州の再エネ移行から見えるのは、エネルギー目標を実現する力は「発電設備を増やす力」だけでは決まらないということです。送電網、蓄電、許認可、人材、資材、地域との合意形成までを同じ時間軸で実装できるほど、移行は前へ進みます。Net Zero AustraliaとAEMOのモデルは、その実装能力を設計条件として可視化しています。制約を早い段階で見つけ、中央系統とローカルな分散エネルギーを組み合わせることが、次の選択肢を増やします。
- Current Policiesシナリオの2030年再エネ比率約59%、Net Zero 2050シナリオで82%到達が約2033年となるモデル結果。
- 設備供給・建設が制約されるConstrained Deliveryで2030年目標が後ろへ動くこと、送電・発電・蓄電を一体で計画する必要性。
- 大型風力・太陽光プロジェクトが運転開始まで複数の商業・規制プロセスを通ることと、開発リードタイムを構成する工程。

Sources / References

Primary-research

Updated Net Zero Pathways for Australia — Topical Report #1

URL: https://www.netzeroaustralia.net.au/wp-content/uploads/2025/11/251014-Topical-Report-1-vfinal_updated.pdf

System-operator-plan

Draft 2026 Integrated System Plan

URL: <https://www.aemo.com.au/consultations/current-and-closed-consultations/draft-2026-isp-consultation>

Government-guidance

Development pathway for Australian renewable energy projects

URL: <https://www.dcceew.gov.au/initiatives/national-renewable-energy-development-pathway>

Source Article

<https://www.ieee802.co.jp/articles/article-106-offgrid.php>

© Kei Communication Technology Inc.

This document is a summary of the source article. For the latest information, refer to the source URL.